

1. 北海道の稲作

- (1) 北海道の米の生産量の順位と全国に占める割合を、地図帳の統計資料から読み取ってみよう。

- ・2018年の全国における米の生産順位（ 2 位 ）
- ・2018年の全国に占める割合（ 6.6 % ） 2018年の米の生産量（ 約 51 万t ）

- (2) 世界の米の生産が盛んな地域と北海道の気候の特徴をそれぞれ挙げてみよう。

米の生産が盛んな地域	なぜだろうか	北海道
(例) 温帯や熱帯など、温暖で降水量が多い。	← →	(例) 冬は雪が降り、夏が短い。

2. 農作物の栽培に不向きな土地、農地開発から始まった稲作への挑戦

- (1) 石狩平野で稲作が盛んになるまでの取り組みとその内容まとめてみよう。

主な取り組み	内容
① 屯田兵による開拓と農地の拡大	(例) 屯田兵など全国各地から移住してきた人が原野や森林を切りひらいて農地を造った。
② (例) 泥炭地の土地改良	(例) 泥炭地の水はけをよくするため排水路を掘り、客土を行ったほか、蛇行する石狩川をまっすぐにした。
③ (例) 品種改良	(例) 寒さに強く、短い期間で生育する品種を開発したほか、近年は「銘柄米」の研究や栽培が盛んになっている。

稲作が盛んに

- (2) 石狩平野などに広がっていた「泥炭地」とは、どのような土地ですか。

- (例) 沼地などに積もった枯れた植物が、低温のために十分に分解されないまま長い年月を経て炭化したものが堆積した湿地。

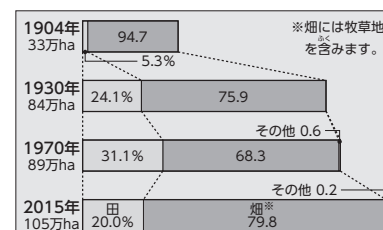
- (3) 資料Ⅰから読み取れることをまとめよう。

- (例) 農地面積は増えているが、田の割合が減り、畑の割合が増えている。

- (4) (3)のような変化が起こっている理由を考えてみよう。

- (例) 1970年以降の減反政策により、転作を行う農家が増え、小麦、そば、大豆などを栽培するようになってきたため。

資料Ⅰ 北海道の農地面積の変化



本時のまとめ

- ◆ 現在のように、北海道で米の生産が盛んになった経緯を、説明しよう。

- (例) 排水整備や客土、河川の整備によって泥炭地の土地改良を行ったり、品種改良で寒さに強く味の良い米を生み出したりしたため。